甲B第21号証

日経 90.9.19

スマトラ島ダム建設融資

政府に中止要請

現地調査団

政府がインドネシア政府の要請で融資の準備を進めているスマトラ島のコタパンジャン水力発電所建設計画に対し、横浜市立大学の鶴見一夫教授を中心とする民間調査団はこのほど、ダム建設は現地住民の生活や自然を脅かす恐れが強く、融資は取りやめるべきだ」とする現地視察調査の結果を発表した。

ダム建設の予定地はスマトラ島中部を流れるカンパラ川の流域のコタパンジャン。インドネシア政府は電源開発、かんがいなどを目的とする高さ五十八メートル、出力百十四メガワット（一メガは百万）の水力発電所を計画しており、日本政府は今年六月このダムの建設総額二億五千万ドルの六割の融資を表明している。

この計画に対して、鶴見教授らは今年八月上旬から中旬にかけて現地の市民団体と協力してダム建設予定地を視察、①ダムの建設で一万四千人以上の住民が立ち退きを強制される恐れがある②の水没地域には貴重な野生動物であるスマトラゾウが二十頭あまり生息している③水没地域の近くに十一―十二世紀ごろの貴重な仏教遺跡がある④ダム建設計画の内容を住民は十分に知らされていない――などの問題点を確認した。

これに対し融資の窓口となる海外経済協力基金（OECF）は「現地の環境を破壊することがないように十分配慮したうえで、援助を進めていきたい」と話している。